旭豊学園だより

Vol.138
夏号

聖句

イサクはシトナ（敵意の意）から移って、更にもう一つの井戸を掘り当てた。
創世記26章15～25節

Green Stage ～とわの森女子ソフトボール部　全国高校選抜大会優勝～

新年度のごあいさつ

酪農学園大学
学　長
干場　信司

昨年度も皆様からは、多方面にわたってご協力を賜りましたことを感謝申し上げます。昨年度末（2013年3月）に、これまで50年以上にわたって続いてきた学部・学科体制の実質的には最後の卒業生が大学を旅立ちました。そして、今年度は、獣医学類を除く４つの学類で、新教育課程の完成年度を迎えています。来年３月には、学群・学類体制になって初めての卒業生を送り出すことになります。

学長になって２年目を迎え、学内の様子も少し見えてきました。今年度は、是非とも具体的な提案をしていきたいと考えています。本学にとって最も大切なことは、本学の建学の理念を体得した学生を世に送り出すことであります。そのためには「三愛精神とそれに基づく健土健民」を「実学」として、すなわち、体を動かしながら、また、それぞれの現場で働く人々と直に接しながら学ぶことが大切です。現場で通じる力は、それぞれの専門における技術力が不可欠ではありますが、それだけで十分ではありません。その技術が農場や地域の中でどのような位置づけを持つのかを見極める力が必要になります。この力は、異なった分野をも含めた総合的な視点から生まれます。

自分の例で述べさせていただくと、私は畜舎施設やその中の環境の設計が元々の専門ですが、いくら最新式の畜舎施設を用いたからといって、畜産経営が良くなるとは言えません。畜舎施設だけではなく、どのような飼料を生産・調整・貯蔵するかによって、また、どのような遺伝的形質を持った家畜を使うのかによって、さらには、どのような家畜衛生的な予防や生産物の衛生管理を行うかを、総合的に管理することによって、初めて経営主の納得のいく経営が可能となる訳です。つまり、本学の2学群5学類が力を合わせ現場の問題に取り組むことによって、はじめて問題の解決につながるということです。これはまさしく健土健民の実践と言えるでしょう。

「現場から学んで、現場に還す」を合い言葉にして、今年度はこれを実行することのできるシステムを提案したいと思っています。皆様のご協力をお願いいたします。

とわの森三愛高等学校
校　長
榮　　忍

年度初めの４月は、あっという間に過ぎます。全日制に288名、通信制に15名の新入生を迎え入れた後、さまざまなオリエンテーションが重ねられ、歓迎の諸行事が行われました。その一方で、授業も粛々と進められます。義務教育を終えたばかりのまだ幼さが残る顔が、いつの間にか青年の顔に変わり始めます。そのための学びと経験を提供するために、学校関係者は力を尽くすのです。

３月の全国選抜大会で、ソフトボール部が全国優勝を果たしました。この競技では、初めて北海道に優勝旗が渡ってきました。東北地方を飛び越えての快挙でした。雪に閉ざされた冬の期間を乗り越え、グラウンドでの連携練習などが満足にできない春の大会で頂点を極めたのは、様々な意味での大きな喜びでした。日常の積み重ねが如何に大事であるか、蓄えたその力が萎縮せずに発揮されれば成果につながることを見せてくれたのです。運動系の競技に限らず、学校活動のすべての場面に当てはまるものが示されたことで、皆が力づけられました。

この朗報と合わせて、アグリクリエイト科・機農コースへ47名の入学生が与えられたことも共有したい喜びです。農業への関心が、漫画や映画の影響で高まっていることも一つの要因でしょう。コースを初めて二クラスに分け、互いに切磋琢磨する学びとなることを期待しています。今後展開される実習で汗を流し、土に触れる経験が、確実に彼らの内面に働きかけて、生きる力を伸ばしてくれると信じています。

コース制による改革も５年目になりました。全コースで、充実と深化が問われる年度です。旧約聖書「箴言」には、「人間の道は自分の目に清く見えるが　主はその精神を調べられる」という言葉があります。自己満足ではなく、真の精神性を高めたいものです。

高大併設の男子寮の新築工事も始まりました。全道、全国から生徒を受け入れ、学園の教育を広げて参りますので、ご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

2013年度学位記授与式 684名の門出を祝う

酪農学園大学・大学院の2013年度学位記授与式が３月20日、本学体育館にて行われ、父母や教職員が見守る中、684名（酪農学部酪農学科154名、農業経済学科54名、食品科学科95名、食品流通学科72名、獣医学部獣医学科125名、環境システム学部環境マネジメント学科20名、地域環境学科38名、生命環境学科93名、大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程５名、酪農学研究科酪農学専攻修士課程18名、食品栄養科学専攻修士課程５名、食生産利用科学専攻博士課程２名、食の安全・安心基盤学コース３名）が学び舎を巣立ちました。

今年度の卒業をもって、学部・学科制は終了となりました（獣医学部を除く）。

式は、藤井創宗教主任の司式によりキリスト教の礼拝形式で行われ、干場信司学長より学部学科・大学院の総代に学位記が授与されました。

干場学長は式辞の中で、「『種は３つ蒔け』という言葉があります。一つは空の鳥のため、一つは地の虫のため、そして最後の一つは私たち人間のためということです。この世の中には、私たち人間だけが生きているわけではありません。自分のことばかりではなく、他人のことも考えながら生きていってほしい」とはなむけの言葉を贈りました。

続いて卒業生代表２名が、これまで学生生活を支えてくれた親や恩師に感謝の言葉を述べました。

麻田信二理事長は、「これからが人生の本番です。自己研さんに努めていただき、酪農学園大学の卒業生であることに誇りを持ち、酪農讃歌を共に歌える同志としてのご活躍を期待しています」と述べました。

2014年度入学式 839名を迎え新たなスタート

酪農学園大学・大学院の入学式が４月７日、本学体育館で行われ、新入生839名（循環農学類277名、食と健康学類149名、管理栄養士コース43名、環境共生学類143名、獣医学類130名、獣医保健看護学類60名、大学院37名）を迎えました。

式は、藤井創宗教主任の司式によりキリスト教の礼拝形式で行われ、新入生に祝福と導きを祈りました。

干場信司学長は式辞の中で、「大学は、いろいろな分野の基礎的・専門的知識を学ぶところであります。でも、それだけではありません。一番大切なのは、正解のない問題を自分で考え、自分なりの考え方を作ることです。しかし、独りよがりであっては世の中に通じません。多くの仲間と議論し、他人の意見を聞き入れることから始めてください」と述べました。

麻田信二理事長は、「大きな時代の節目に私たちが考えなければならないのは、長期的かつ広い視点に立って物事を考え、難しい問題にも果敢に挑戦し打ち勝つ力を持った人材を育てることであると考えています。酪農学園は、これからの時代を担う有為な若者にとって必要な教育環境の整備充実に引き続き努めて参ります」とあいさつしました。

新入生オリエンテーションを実施

新入生オリエンテーションが、４月８日～12日まで実施されました。10日と11日の午前には「自己の探求プログラム」が行われ、11日の午後からは、学類ごとに企画して学外オリエンテーションが行われました。自己の探求プログラムでは、「自己理解を深めて自信を持とう!」をテーマに、６～７人のグループに分かれてディスカッションや発表を行い、自分理解を深めるとともに、相手が自分を理解する手助けをし、チームビルディングを学びました。

学外オリエンテーション学類企画報告

環境共生学類

本学・洞爺湖町地域総合交流協定施設「成香教育研究センター」でオリエンテーションを行いました。その後、宿泊先の洞爺湖万世閣ホテルレイクサイドテラスに移動し、夜は新入生が関心を持った専門分野の教員の部屋を訪ね歩き、教員との交流を深めました。

翌日は、ホテル内外にて、学類紹介、取得できる資格の紹介、卒業生の講話の後、２グループに分かれてワークショップと野外ミニ実習が行われ、ミニ実習では、上級生や大学院生がブースを構え、森林資源の調査、水質調査、GISを使った野性動物調査などの実演を行いました。

循環農学類

札幌市円山動物園の箕岡健輔氏を迎え、「新しい動物園の役割」と題した講義を受けました。続いて「基礎演習クラス対抗コース紹介クイズ」が行われ、各コースのコーディネーターの教員がそれぞれの専門分野からクイズを出題。「牛の泌乳曲線はどれ?」などの難題が会場を盛り上げました。

翌日は円山動物園での学外実習が行われ、新入生はアドバイザー教員とともに、ゼミごとに分かれて園内を見学しました。

獣医保健看護学類

全学年が、Ｄ１号館の教室に集まって学類紹介や教員紹介を行いました。その後、宿泊先の南幌温泉へ向かい、夕食後に２～４年生が主体となって、新入生の自己紹介や伝言ゲーム、本学にまつわるクイズ大会を企画しました。終了後は、温泉でゆったりと露天風呂を楽しみながら、交流を深めました。

翌日はウトナイ湖へ向かい、ウトナイ湖野生鳥獣保護センターにて、本学卒業生の山田智子氏と鳥海絵奈氏によるレクチャーを受けた後、傷病施設を見学しました。山田氏は、人と野生鳥獣の関わり方について説明し、聴講した新入生は「保護のあり方について、とても心に響く話だった」と感想を述べました。

獣医学類

担当教員が、獣医師の職域、６年間で学ぶカリキュラム、獣医師国家試験について説明しました。その後、バスで宿泊先の定山渓温泉へ向かい、夕食後に新入生が関心のある分野の教員を訪ねて、質問や懇談を行いました。また、学生同士でも親睦を深めました。

食と健康学類

新入生・教員との親睦会を行いました。ジンギスカンを囲みながら、グループごとに自己紹介をしてお互いの親睦を深めました。

学生が商品開発したパンが（株）どんぐりで販売

産学連携の取り組みとして、食と健康学類の給食管理学研究室の４年（指導：金高有里講師）の学生が企画したパン３種が、株式会社「どんぐり」の協力によって商品化され、３月４日～14日の期間限定で、どんぐり新さっぽろ店と森林公園店で販売されました。学生たちは毎日交代で店頭に立ち、実演販売を行いました。

商品化されたのは、牛の顔の形をしたパンの中に、牛乳をたっぷり使ったオリジナルホワイトシチューが入っていて、１日に必要なカルシウムの３分の１が摂れるという「牛さんからの贈り物」、貧血予防に効果のある鉄分豊富なパセリを練りこんだパンにほうれん草とベーコン、チーズをホットサンドした「パセリーニ」、ニンジンのカロテンを効率よく吸収できるよう、ごま油で卵とにんじんを炒めた沖縄料理“にんじんしりしり”をにんじんパンで挟んだ「カロットサンド」の３品で、管理栄養士を目指す学生ならではの栄養学的観点も考慮されました。

牛さんからの贈り物

パセリーニ

カロットサンド

筒井ゼミ6回目の入賞 第9回キャンパスベンチャーグランプリ北海道表彰式

学生による新事業の提案コンテスト、「キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）北海道」の表彰式が２月４日、札幌ガーデンパレスで開催され、本学酪農学部酪農学科４年の二反田達矢さんと森葉月さん（指導：食物利用学研究室 筒井静子准教授）のプラン「規格外ピーマンを救おう!～有効活用とその先に～」が努力賞を受賞しました。

CVG北海道実行委員会と日刊工業新聞社の共催で行われたこのコンテストは、道内の大学生などを対象に産学官連携に向けた新規性のあるビジネスプランを競い合うもので、今回は道内の13大学などから62件の応募があり、最優秀賞１件、優秀賞１件、奨励賞６件、努力賞８件が選ばれました。

森さん（写真左）は「プレゼンの練習もしっかり行ったかいがあり、賞をいただくことができました。北海道には、まだ未開発の食材がたくさんあると思います。その食材の文化や風味を生かし、北海道の素晴らしさを伝えていきたい」と話しました。二反田さん（写真右）は「表彰式・祝賀会と華やかなので圧倒されました。表彰のとき最初に呼ばれて、まだ心の準備ができていなかったので焦りましたが、賞状を受け取った時に実感がわいてきてうれしい気持ちでいっぱいになりました。このような晴れの舞台に立つことができたのは、筒井准教授のご指導と仲間たちの協力のおかげだと感謝しています」と話しました。

2013年度 課外活動表彰（第1回・第2回）・学長特別表彰

2013年度の学生生活援護会「第１回課外活動表彰式」が12月５日に、「第２回課外活動表彰式」および「学長特別表彰」が３月７日に行われ、干場信司学長から表彰状と報奨金が贈られました。

2013年度 学生生活援護会 課外活動表彰団体一覧（第１回）

剣道部	第40回北海道女子学生剣道選手権大会	第3位	新開　涼華
男子バスケットボール部	第63回北海道大学バスケットボール春季選手権大会	第2位	
	第65回北海道大学バスケットボール部選手権大会	第1位（1部）	
男子バレーボール部	第46回大滝杯北海道大学男女バレーボールリーグ春季大会	第1位（6部）	
バドミントン部	第55回北海道学生バドミントン春季リーグ戦大会	女子第1位（3部）	
	第55回北海道学生バドミントン秋季リーグ戦大会	女子第1位（2部）	
少林寺拳法部	第44回少林寺拳法北海道学生大会	自由組演武弐段以上の部 第3位	近藤　茉莉花
	〃	〃	田實　裕将
空手道部	第51回北海道空手道選手権大会	一般男子組手の部　第2位	大下　修平
	第43回北海道学生空手道選手権大会個人戦	女子個人組手　第1位	平野　琴美
アーチェリー部	第42回男子王座決定戦	男子ＲＣ個人　第1位	奥村　昂也
	第44回北海道学生アーチェリー個人選手権大会	男子ＲＣ個人　第2位	奥村　昂也
弓道部	第66回北海道弓道大会	男子個人　第1位	中原　裕貴
	第68回国民体育大会	出場に対しての表彰（近的 第6位入賞）	佐藤　裕貴
硬式テニス部	北海道学生テニストーナメント大会	ダブルス　第3位	鳥居　佳生
	〃	〃	平　寛人
軟式野球部	第20回秋季リーグ戦大会	第3位	
女子バレーボール部	第46回大滝杯北海道大学男女バレーボールリーグ春季大会	第1位（4部）	
準硬式野球部	平成25年度北海道地区大学準硬式野球大会	第1位（3部）	

2013年度 学生生活援護会 課外活動表彰団体一覧（第2回）

アーチェリー部			
第37回北海道学生アーチェリー秋季インドア大会	男子RC個人	第１位	奥村　昂也
第41回北海道学生アーチェリー冬季インドア大会	男子RC個人	第２位	奥村　昂也

学長特別表彰

第41回毎日農業記録賞	優良賞	吉田　真亜弥
第9回キャンパスベンチャーグランプリ北海道	努力賞	二反田　達矢
	努力賞	森　葉月
牛乳・乳製品利用料理コンクール	優秀賞	坂井　俊

国際交流フェア2014開催

本学は、４月29日～30日に国際交流フェア2014を開催しました。

29日は特別講演として、独立行政法人国際協力機構（JICA）青年海外協力隊事務局長である小川登志夫氏（大学酪農学科1982年卒）が「国際協力の現状と酪農学園生への期待」と題して話しました。

小川氏は、1983年～1985年まで青年海外協力隊員としてガーナに、その後、専門家としてケニアに赴任し、帰国してJICAの職員となりました。自身の体験談を交えながら援助の目的と意義、青年海外協力隊の現状などに触れ、「世界が小さくなっている現在では、感染症予防や環境問題などは地球規模で取り組まなければなりません。政府開発援助（ODA）を行って開発途上国の食料、感染症、環境問題などを解決するのは、日本にとっても大切なことです。一部の方は、日本は豊かだから貧しい国を支援するのは当たり前だという、施しのような意識を持たれているかもしれませんが、開発途上国支援というのは施しではありません。我々、あるいは我々の子ども、次の世代が安定的に暮らしていくためのもので、まさに日本の未来の繁栄につながる根本的なことなのです」と語りました。

30日には、国際協力機構（JICA）、国際農業者交流協会、北海道農業公社、日本青年海外派遣センター、国際ビジネスコミュニケーション協会（TOEIC）、アルプロス（英会話講座）、北海道アルバータ酪農科学技術交流協会の７団体による個別相談、学生・教職員の海外体験談、パネルディスカッションが行われ、海外協力、農業研修、あるいは留学に関心を持つ学生が続々と訪れました。

スイス農業研修
佐藤 斗紀さん
（食と健康学類３年）

ベトナム実習
横澤 照美さん
（獣医学科６年）

中央館談話室では、「World Report」と題して在学生による海外体験談発表と、英会話講座が実施されました。体験談発表では、４名の学生が、１年間のスイスでの農業研修体験や２ヶ月間のベトナムでのインターンシップ体験などについて話しました。

公開シンポジウム 若者を農村に呼び込む交流集会開催

本学は、３月14日に「若者を農村に呼び込む交流集会－我が町はどのように若者を魅了したかー」と題する公開シンポジウムを、学生ホールで開催しました。

講師は安藤邦也氏（道農政部畜産振興課）、同窓生である足寄町役場の坂本秀文氏（大学酪農学科1971年卒）、浜中町農協の高橋勇氏（大学酪農学科1984年卒）、佐呂間町の山口克也氏（大学酪農学科1999年卒）の４名。各自治体や農協関係者、本学の学生や教職員約60名の参加者が熱心に講演や討論に耳を傾けました。

講演では、まず安藤氏が「本道酪農における新規参入の動向と課題」と題して、北海道酪農の概況と新規参入の方式別の実態について紹介し、農場リース事業活用方式、農協出資法人活用方式などの概要と考察を説明しました。

坂本氏は「酪農経営の第３者経営継承の取り組み」と題して、足寄町における新規就農対策の概要と第３者経営継承を成功させるための対策を紹介しました。就農地域での信頼関係を構築することの重要性を述べ、「夢だけではダメで、必死に働かないと周囲は認めません」と語りました。

高橋氏は「浜中町の農業協同組合における担い手育成30年の歩み」と題して、浜中町に平成３年に設立された、就農者研修牧場における新規就農支援を紹介しました。牧場でのトレーニング内容を具体的に説明し、安心して研修してもらうために、住宅を完備し家賃と水道料は無料とするなどの支援策について語りました。

山口氏は「牛飼いへの道のりー山口牧場の場合ー」と題して、佐呂間町で新規就農に至る経過や現在の経営実態を詳細に紹介しました。また、講演後には、占冠村や標津町、陸別町、天塩町から新規就農支援の取り組み状況が紹介され、講演者による総合討論が行われました。

7名の同窓生が入試アドバイザーに!

学生募集のための入試アドバイザーとして、2014年度は７名の同窓生に活動していただきます。

５月16日には、本学にて情報交換会を開催し、干場信司学長はじめ、学群長、学類長、入試部など約20名が出席し、意見交換会が行われました。

同窓生入試アドバイザーは、各担当地域で高校訪問を中心に活動します。

氏　名	担　当	卒業学科	卒　業
津田　雄二	北海道	農業経済学科	11期
橋本　幸雄	栃　木	大学・酪農学科	12期
大場　泰子	群　馬	大学・酪農学科	９期
勝村　直喜	山　梨	大学・酪農学科	６期
澤竹　孝幸	近　畿	大学・酪農学科	10期
河野　雅晴	近　畿	農業経済学科	11期
金子　國雄	九　州	大学・酪農学科	７期

入試相談等は本学入試部（011-388-4138）へお問い合わせください。

本学公式LINEページ開設 友だち1,100人超え!!

酪農学園大学の公式LINEページを開設しました。受験情報や施設の写真などを配信します。LINEの「酪農学園大学公式アカウント」から送られる情報を受信するにはLINEに登録した上で「酪農学園大学」を「友だち」に追加する必要があります。以下の手順で追加をしてください。

★「友達」追加方法

1／LINEアプリを起動し、[その他]→[公式アカウント]→[名前またはID検索]→「酪農学園大学」または「@rakunouniv」を入力

2／LINEアプリを起動し、[その他]→[友だちを追加]→[QRコード]より右記QRコードを読み込み

第65回獣医師国家試験結果

２月18日・19日に実施された第65回獣医師国家試験の結果が３月14日、農林水産省より発表され、本学の合格率は96.8%と、全国３位の合格率（私立大学で１位）となりました。

	受験者数	合格者数	合格率
本　学	**125**	**121**	**96.8%**
全　国	1,237	1,011	81.7%

第28回管理栄養士国家試験結果

３月23日に実施された第28回（2013年度）管理栄養士国家試験の結果が５月９日、厚生労働省より発表されました。

結果、本学は受験者全員が合格し、合格率100%を達成しました。2010年度以降、北日本（東北・北海道）の管理栄養士養成大学の中では５年連続で首位となっています。

	受験者数	合格者数	合格率
本　学	**35**	**35**	**100%**
全　国	21,302	10,411	48.9%

公務員獣医職合同説明会開催

公務員獣医職合同説明会が５月８日、本学にて開催されました。

37の道府県庁、国の機関、札幌市の家畜衛生部門の担当者等が集まり、中央館１階と２階に個別ブースを設け、公務員獣医師を目指す学生に業務内容や採用情報を説明しました。

数多くの公共団体が一堂に会しての合同説明会は今年で３回目の開催となりますが、ブースには例年より多い572人の学生たちが集まり、熱気にあふれた会場風景となりました。

高校トピックス

女子ソフトボール全国制覇

第32回全国高校選抜女子ソフトボール大会が３月21日～24日に、三重県熊野市で行われ、本校女子ソフトボール部が創部以来初となる優勝を果たし、全国の頂点に立ちました。決勝戦では、昨夏の全国総体の優勝校である創志学園高校と対戦。エース廣瀬の力投に打線が応え、見事３－２で勝利を収めました。「考えるソフトボール」を選手一人ひとりが実践し、チーム一丸となって全国制覇を成し遂げました。支えてくださった皆さまの多くのご声援ありがとうございました。

《全国優勝までの軌跡》

１回戦	とわの森	４－０	福井商業
２回戦	とわの森	４－３	佐賀女子
３回戦	とわの森	１－０	津商業
準々決勝	とわの森	１－０	九州文化学園
準決勝	とわの森	５－４	東海学園
決勝	とわの森	３－２	創志学園

また、同ソフトボール部は、道庁を訪ね高橋はるみ知事に全国制覇を報告しました。さらには、４月12日に行われた北海道日本ハム対西武戦の始球式に招かれ、今年江別市の応援大使を務める大引啓次選手から記念の盾と初優勝を称える表彰状を受け取りました。

2013年度　卒業式

３月１日午前10時より、本校礼拝堂にて2013年度卒業証書授与式が行われました。６コース制２年目の卒業生となる328名が、多くの在校生・保護者の見守る中、凛とした表情で卒業証書を受け取り、学舎を巣立っていきました。

また、３月８日には、同じく通信制課程の卒業式も行われ、21名の生徒に卒業証書が手渡されました。

☆卒業生の主な進路は、次のとおりです。
酪農学園大学75名、北大・教育大をはじめとした国公立大学10名、他大学104名。

2014年度　入学式

４月５日午前10時より、本校礼拝堂にて2014年度入学式が行われました。288名の新入生が緊張した面持ちで入堂し、担任による新入生点呼の後、榮忍校長から入学許可宣言がされました。新入生を代表して石川朋佳さんが誓いの言葉を述べ、礼拝形式のとても落ち着いた入学式を無事終えました。

また、４月19日には通信制課程の入学式も行われ、15名の生徒の通信制課程普通科への入学が許可されました。本校で学ぶ３年間が、全ての生徒にとって有意義なものとなることを願っております。

3年　欧州研修旅行

本校アグリクリエイト科３年生（当時２年生）が、３月16日～24日の日程でデンマーク・ドイツに行き、酪農と食について学びました。デンマークではグルンドヴィが提唱した本校の建学の精神である三愛精神のルーツを学び、駐デンマーク日本大使館やAlraフーズ乳製品工場や有機酪農家などを訪問。ドイツでは、ビンゲン大学農学部や酪農家を訪問し、将来に向けての視野を広げる素晴らしい機会を得ることができました。

全員が無事に多くの貴重な体験をする研修ができたのは、保護者の皆さまをはじめ、携わっていただいた多くの方々のおかげです。ご協力に心より感謝申し上げます。

通信　支笏湖

４月21日よりスクーリングが開始されて２週間が過ぎました。本校の通信制課程通学コースの特色は、火曜日の取り組みで農業科目や体育、行事などをこの日に行います。また、５月16日～17日には通信コースの集中スクーリングの北海道研修が行われました。支笏湖湖畔や千歳川などの大自然を満喫し、みんなと楽しいひと時を過ごすことができました。「農・食・環境・生命」をキーワードにした学びができる酪農学園、通信制課程ならではの北海道研修旅行となりました。

アドバンス　コース行事

５月15日本校礼拝堂にて、アドバンスコース生徒が、卒業生でジャンベ太鼓・縄文演奏家の茂呂剛伸さんを招き、演奏及び講演をして頂きました。太鼓の演奏と進路選択に向けたアドバイスを頂き、自らの経験をもとに道を拓くための術を学ぶことができ、貴重な時間となりました。

1年　コース行事

本校総合教育コース１年生が、４月に「体験」をテーマとしたレクリエーションに出かけました。各クラスごとに、グラス作りや小樽水族館のバックヤード見学、工場見学、パークゴルフなどに挑戦しました。新入生にとって、「とわの森」で出会った新しい仲間と、より親しくなれる良い機会となりました。

［北海道三笠市］
有限会社　山崎ワイナリー
代表　山崎和幸（やまざきかずゆき）さん
（機農高校1970年、短期大学1972年卒業）

《プロフィール》
1953年生まれ、本学卒業と同時に就農
2002年に醸造免許取得

［㈲山崎ワイナリーの概要］

ぶどう栽培面積	約10ヘクタール
主な品種	ピノ・ノアール、シャルドネ、ケルナー、ツヴァイゲルトレーベ、メルロー、バッカスなど
年間生産量	３万本（750mℓ／本）

ホームページ
http://www.yamazaki-winery.co.jp

質の高いワインを製造する農家ワイナリーの先駆者

最近、道内ではぶどうを生産してワインを造る小規模なワイナリーが増えています。かつては気候条件から北海道に適さないといわれた高級品種が栽培できるようになり、道産ワインの評価が高まってきました。ワインはぶどうに付加価値をつけるだけでなく、チーズなどの食材との結びつきによる地域の食の魅力創造、ぶどう畑を見学してワイナリーを巡るツーリズムなどの核となる産業として注目を集めています。

山崎和幸さんは、2002年に道内の農家として初めて醸造免許を取得し、三笠市達布（みかさしたっぷ）の丘の上でワイン造りを始めました。ご夫婦と３人のお子さんで栽培、醸造、販売まですべて行う家族経営のワイナリーです。自分で育てたぶどうだけを使うというこだわり、ワインの美味しさが共感を呼び、ファンが広がっています。

また、近年、山崎さんにあこがれて三笠市周辺でぶどう栽培やワイン造りをめざす農家や就農希望者が増えています。

農家ワイナリーの先駆けである山崎さんに、ワイン造りに取り組んだきっかけ、ワイナリー開設までの道のり、これからの目標などについて伺いました。

ラベルは家族の指紋が花びらに

入学のきっかけと学生時代の思い出

農家の長男だったので、農業後継者ということもあり、機農高校に入学しました。全道、全国から個性あふれる仲間が集まって、思春期の３年間、共に寮生活を送ったのですから、影響は大きかったです。高校を卒業してすぐには後を継ぎたくなかったので、親にお願いして短大に行かせてもらいました。19～20歳といえば遊びたい盛りの年頃で、２年間よく遊びました。

地元ではない学校に行ったことで、全道、全国から来た仲間と出会い、つながりができました。もし、地元の高校に行って、卒業して一緒に就農し、一緒に農協や農民協の活動をしていたら、今のようなものの見方や考え方をしていなかったと思います。自分にとって、機農高校に行ったことが一つの転機となりました。

就農、そしてワイン造りに取り組んだきっかけ

就農した当時は、地域の農家10戸でスイカを作付けしていました。その後、離農する農家の農地を引き受けながら、スイカなど果菜類をやめて小麦を導入し、国の政策に従って大規模機械化農業をめざしました。この頃、地元の農協が広域合併しましたが、傾斜地が多くて収量が上がらない三笠地域はないがしろにされ、農協のやり方に疑問を感じるようになりました。

31歳の時に農協役員をやっていた父が他界しました。一家の大黒柱として、このままではいけない、何とかしなければと思うようになりました。

32歳の時に、ニュージーランドの農業研修に参加し、農産物を自ら加工して販売する農家の生活スタイルに影響を受け、ワインにも出会いました。1997年には、空知支庁のグリーンツーリズム事業の視察に参加し、ファームインの先進地である新得町の湯浅優子さんを訪ね、農業をしながら消費者と交流するスタイルに影響を受けました。また、長沼町の仲野満さんがログハウスを建てて農家レストランを開業したという新聞記事を読んで訪ねて行き、私も仲間とログハウスを建てて、会員制のファームインを開業しました。

ぶどう畑（５月）

ぶどう

丘の上のワイナリー

こうした経験や活動をしていく中で、運命の出会いがありました。1998年に、北海道ワイン㈱の技術者として勤め、その後新潟県でワイナリーを開業した落希一郎さんが、私のログハウスに訪ねて来て、「ここはワイナリーをやるのに最高の土地だから、ワイナリーを建ててみては？」と言われ、すっかりその気になったのです。いろいろな人との出会いがあったから、ワイナリー建設に一歩を踏み出せたのだと思います。

ワイナリー開設への道のり

周りに経験者は誰もいませんので、何もかもが初体験でした。ハードルの一つは醸造免許の取得です。税務署から個人に醸造免許が下りるのは難しいと言われましたが、自分の好きなピノ・ノアールなどを植えて、少しずつ増やしていき、３年目に醸造免許の下限である6,000リットルを造れる８～10トンのぶどうを収穫できる目途が立ったので、2002年に免許を申請しました。

ワイナリーを建てるための農地転用も、農業委員会は醸造免許など取れるわけがないと思っていましたので、理解してもらうのに苦労しました。

また、融資（スーパーＬ資金）も、当時の農林漁業金融公庫には前例がないということで、なかなか認めてもらえませんでした。最終的に１億円を借りることができ、空知支庁の補助もいただいて、醸造所と農産物直売所を建てました。

醸造技術は、コンサルタントの人がやるのを見て覚えていきました。

成功したのは、ピノ・ノアールを植えたことと、優れた技術を持ったコンサルタントと出会えたことが大きかったと思います。幸い、2002年は天候に恵まれ、ぶどうのできが良く、すばらしいワインができました。特に、ピノ・ノアールはプロの人たちから支持されました。新聞や雑誌、テレビ、ラジオが取り上げてくれ、山崎ワイナリーが知られるようになりました。

１年間の作業スケジュール

うちでは、苗木を植えた翌年から収穫しています。１年目にいかに一生懸命手入れをして木を作るかが重要です。果樹はほかの作物と違って１年目は収穫がありません。手入れと資金は必要です。雪解け後、木を起こして支柱に張った針金に縛り、芽が出て新梢が伸びてきたら誘引して、防除します。７月下旬から８月に葉を整理して、９～10月に収穫し、11月中旬以降に秋のせん定をします。収穫したぶどうはすぐ搾って発酵させます。様子を見ながら約２カ月かかります。

ワインの魅力

自分で値段を付けられることです。寝かせることで価値が上がる農産物は、ほかにありません。競争相手は世界のワインです。ワイン談義の中でフランス、ドイツ、イタリア、アメリカなどのワインと比較されるなんて、すごいことです。

地域とのつながり

「地域が良くならなければ、自分は良くならない」というのが父の遺言でした。自分もいつも念頭に置いています。地域の農家戸数は減っていますが、ワイナリーを目指す人が研修に入り、近くでぶどうを作ったり、ワイナリーを立ち上げたりしています。今も、東京から来た人がうちで研修しています。

ワイナリーにこんなに人が集まっていて、訪ねて来る人も多いのだから、達布地域に立ち寄るところがあればいいと思っています。レストランやパン工房、焼き物をやる人に来てもらい、交流を深める場を作るのが、これからの夢ですね。

何年か前に、江別市でチーズを作っている米村牧場（米村光喜さんは短大1996年卒）から、ワインやワインのオリを使いたいと申し出があり、提供するようになりました。ワインやワインのオリを使ったチーズを作っているようで、同窓生としてコラボしていますよ。

これからの目標

ワイナリーは農業です。風土がワインの個性を生み出します。ぶどうを栽培してワインを造る本物のワイナリーをめざしてきました。今までやってきたことを後世に伝えていくのが目標です。息子たちには、ポリシーを持って、環境整備をして、より癒され、安心できる空間づくりをしていってもらいたい。その下地は作ったと思います。

在学生へのメッセージ

恐れないで、何事にも挑戦してほしいです。一歩を踏み出しましょう。

醸造所

学園トピックス

ジヨイフル レインボーが準々オールニッポン賞に輝く

デーリィマン社と全国酪農協会が主催する「第35回オール・ニッポン・ホルスタイン・コンテスト」の第４部未経産シニア・クラス（21ヶ月以上24ヶ月未満）において、酪農学園フィールド教育研究センター酪農生産ステーション繋ぎ飼い牛舎の「ジヨイフル　レインボー　スター　ダンデイ」が、同クラス第３位となる準々オールニッポン賞を受賞しました（「DAIRYMAN　臨時増刊号　2014　SUMMER」に結果が掲載）。

このコンテストは、全国の共進会又はB&Wショウで１位となった選りすぐりの乳牛の中から、選定委員が第１～11部門ごとに６頭のノミネート牛を選定し、その中から最終審査で順位付けが行われます。その結果が、５月に公表されました。

フィールド教育研究センター「作物生産ステーション」が始動

大学と附属高校のフィールド教育研究に関する圃場や施設を一括管理するフィールド教育研究センターの作物生産ステーションにおいて、花き、野菜、作物、作物保護からなる４棟の環境制御型の鉄骨ガラスハウス（計212㎡）、２つの作業棟、乾燥庫、堆肥舎、屋外の展示圃場が５月末に完成しました。花き温室では、カーネーションやスターチスの栽培、野菜温室ではアスパラガスの交配や高糖度トマトの養液栽培、作物温室ではダイズなどの畑作物のポット試験とイネの品種比較、作物保護温室では野菜の病害防除に関する試験研究が行われており、本学の作物生産分野における教育研究の充実が図られています。

園芸棟（左）と作物棟（右）

ガラスハウス

高大併設男子寮（仮称）の建設

酪農学園では高大併設男子寮の建設を進めています。この寮の整備により、親元を離れて高校、大学へ入学する生徒、学生の皆さんが、より安心で快適な学園生活を送ることができます。

高校生と大学生では生活のリズムや寮生の自治、自己管理と自己責任の範囲などが基本的に異なるため、玄関、食堂、ロビー、応接室、浴室、シャワー室など、ほとんどの生活空間は高校と大学で別々に設けられる配慮がなされています。

2015年４月からの寮生活に向けて、３月上旬の竣工を予定しています。

高大併設男子寮（仮称）完成予想図

■施設の概要

・建設場所：キャンパス内（創世寮の北側）
・建物概要：鉄筋コンクリート造４階建て（一部地下１階）
　延べ床面積／約7,500㎡
・収容人員と寮室数：高校／134人（１～２年生４人部屋22室、３年生２人部屋23室）
　大学／204人（１～３年生４人部屋48室、４年生以上個室12室）
　総計／105室、338人

学校法人酪農学園決算報告

2013年度決算の概要

2013年度決算が、去る５月28日開催の理事会にて承認されましたので、その概要をお知らせいたします。

学校法人会計の計算書類は、資金繰りを示す「資金収支計算書」、経営状況を示す「消費収支計算書」および財産状況を示す「貸借対照表」より成り、私立学校法第47条および学校法人会計基準第４条により定められた規則に基づき作成したものです。

資金収支計算書（概要）

収入の部　（単位：千円）

科　目	決算額
学生生徒等納付金収入	5,291,365
手数料収入	132,216
寄付金収入	60,596
補助金収入	1,137,633
資産運用収入	144,035
資産売却収入	11,173,967
事業収入	897,180
雑収入	335,705
借入金等収入	45,600
前受金収入	747,191
その他の収入	479,017
資金収入調整勘定	△ 1,122,565
前年度繰越支払資金	4,560,963
収入の部合計	23,882,903

支出の部　（単位：千円）

科　目	決算額
人件費支出	4,002,011
教育研究経費支出	2,166,508
管理経費支出	645,023
借入金等利息支出	7,521
借入金等返済支出	126,000
施設関係支出	1,101,999
設備関係支出	222,873
資産運用支出	11,087,046
その他の支出	562,046
資金支出調整勘定	△ 622,916
次年度繰越支払資金	4,584,792
支出の部合計	23,882,903

消費収支計算書（概要）

消費収入の部　（単位：千円）

科　目	決算額
学生生徒等納付金	5,291,365
手数料	132,216
寄付金	69,604
補助金	1,137,633
資産運用収入	144,035
資産売却差額	207,517
事業収入	897,180
雑収入	338,976
帰属収入合計	8,218,526
基本金組入額合計	△ 782,428
消費収入の部合計	7,436,098

消費支出の部　（単位：千円）

科　目	決算額
人件費	3,989,747
教育研究経費	2,926,927
管理経費	722,119
借入金等利息	7,521
資産処分差額	50,061
徴収不能額	643
消費支出の部合計	7,697,018
当年度消費収支差額	△ 260,920
前年度繰越消費収支差額	△ 2,564,219
基本金取崩	165,696
翌年度繰越消費収支差額	△ 2,659,443
帰属収支差額	521,508

貸借対照表（概要）

資産の部　（単位：千円）

科　目	2013年度末
固定資産	30,316,485
有形固定資産	16,878,044
その他の固定資産	13,438,441
流動資産	5,034,499
資産の部合計	35,350,984

負債の部　（単位：千円）

科　目	2013年度末
固定負債	2,060,780
流動負債	1,631,000
負債の部合計	3,691,780

基本金及び消費収支差額の部（単位：千円）

科　目	2013年度末
基本金	34,318,647
消費収支差額	△ 2,659,443
負債の部、基本金及び消費収支差額の部合計	35,350,984

酪農育英会だより

皆様には、常日頃より本育英会に対し、ご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

2013年度の事業報告及び2014年度の事業計画は次のとおりです。

2013年度事業報告

１．奨学金貸与事業：37名に対し、総額17,200,000円を貸与した。

内　訳	予　算		決　算		差　異	
	人数	（千円）	人数	（千円）	人数	（千円）
大　学	34	16,320	34	16,120	0	200
大学院	2	1,200	1	600	1	600
高等学校	5	1,200	2	480	3	720
計	41	18,720	37	17,200	4	1,520

２．奨学金給与事業：23名に対し、総額5,820,000円を給与した。

内　訳		予　算		決　算		差　異	
		人数	（千円）	人数	（千円）	人数	（千円）
私費留学生	大　学	1	480	0	0	1	480
	大学院	7	3,900	7	3,900	0	0
高等学校		15	1,800	16	1,920	△ 1	△ 120
邦人留学		1	480	0	0	1	480
計		24	6,660	23	5,820	1	840

３．酪農研究奨励金交付事業

団体１、個人１名に対し総額600,000円を交付した。

・日本酪農青年研究連盟（日本酪農研究会）　300,000円
第65回日本酪農研究会における最優秀賞(黒澤賞)の副賞（酪農育英金）等として交付した。

・酪農学園内の40歳未満の教職員
獣医学群獣医学類　松田 一哉　准教授　300,000円
『狩猟捕獲されたエゾシカの健康状態評価を目的とした病理学的知見の集積』

４．『酪農育英会だより』の発行

2013年12月に『酪農育英会だより』を発行し、関係各位に配布した。

2014年度事業計画

１．奨学金貸与事業：35名に対し、総額16,200,000円を貸与する。（公１事業）

・大学31名14,880,000円、大学院１名600,000円、高校３名720,000円

２．奨学金給与事業：21名に対し、総額5,160,000円を給与する。（公１事業）

・（外国人私費留学生）大学１名480,000円、大学院４名2,400,000円
（高等学校）15名1,800,000円、（邦人私費留学生）１名480,000円

３．研究奨励金交付事業：１個人に対し300,000円を交付する。（公２事業）

・酪農学園内の40歳未満の教職員　300,000円

４．研究奨励金交付事業：１団体に対し総額300,000円を交付する。（その他の事業）

・日本酪農青年研究連盟（日本酪農研究会）　300,000円

寄付金（2013年度）

ご支援を賜り誠にありがとうございました。感謝を込め、お名前のご報告を申し上げます。

☆麻田 信二様、細田 治憲様、松田 浩二様、岩館 明美様

同窓会からのお知らせ

同窓会ホームページのお知らせ

酪農学園同窓会連合会は以下のURLからアクセス可能です。高校、短大、大学の同窓会や地区支部同窓会の開催予定も見ることができます。

また同期会やクラブOB会等の助成金申請や各種証明書の発行もこちらから入ることができます。

合わせて大学同窓会校友会HPのURLと短期大学部同窓会HPのURLをお知らせします。

●酪農学園同窓会連合会ホームページ
http://rakuno.org/

●酪農学園大学同窓会校友会ホームページ
http://kouyukai.rakuno.org/

●酪農学園大学短期大学部同窓会ホームページ
http://jc.rakuno.org/

恩師等の情報はこちらのホームページからご覧ください。

●貴農同志会（教職員OB会）ホームページ
http://doushikai.rakunogakuen.org/

ホームカミングデー開催のご案内

今年で第23回を数えるホームカミングデーを黒澤記念講堂および同窓会前庭を会場として下記のとおり開催準備を進めております。

例年同様に野外でのバーベキューランチ（雨天の場合は生協食堂）でオープニングの予定です。連休を前に是非母校にお立ち寄りいただきたくご案内申し上げます。

なお、この機会に同期会やOB会の開催をご検討願います。農業経済学科は同日午後６時から設立50周年記念パーティーをアークシティホテルで開催します。あわせてご出席願います。

記

開催日時：2014年９月13日（土）　昼食会 11：00～12：30
記念講堂前庭でのバーベキューを計画（会費／1,000円程度）
記念礼拝：物故者追悼礼拝含む　13：00～13：30
記念講演：講師／斉藤 達夫氏　13：30～14：30
演題／「牛飼い教員のあゆみ」

同窓会専用はがきと利用方法

同窓会では、「受取人払郵便はがき」を作成しています。

地区支部同窓会総会案内や同期会、クラス会等各種同窓会の返信用に利用することが可能です。

受取人払のため、はがきは一旦同窓会に郵送されますが、後日出欠集約後、地区支部事務局や幹事様等へExcel等の形式で集計結果をお知らせいたします。

利用を希望する場合は、右記の同窓会事務局にご連絡いただければ必要枚数を個別にお送りします。受取人払のため、掛る郵送費は同窓会本部で負担します。詳細は右記の事務局までお問い合わせください。

同窓会等開催のお知らせ

７月19日（土）	北海道４区宗谷支部設立総会
７月20日（日）	酪小獣「九州ブロック」研修会
８月２日（土）	緑風会（教員OB会）中央研修会
８月３日（日）	酪小獣「麦の会」総会・研修会
８月23日（土）	九州地区連合同窓会
９月６日（土）	緑風会（教員OB会）道東支部研修会
９月13日（土）	酪農学園ホームカミングデー
９月27日（土）	大学収穫感謝祭
９月28日（日）	酪小獣「地塩会」総会・研修会
10月18日（土）	酪農公開講座（道内遠軽町）
10月19日（日）	近畿地区兵庫県支部設立総会
11月８日（土）	東北地区福島県支部総会
11月16日（日）	酪農学園大学公開講座（仙台市）
11月17日（月）	酪農公開講座（山形県天童市）
１月８日（木）	緑風会（教員OB会）総会・懇親会

同窓会連合会九州地区連合同窓会のお知らせ

日　時：2014年８月23日（土）午後５時00分～
会　場：「福岡ガーデンパレス」
福岡市中央区天神４丁目８番15号
TEL.092-713-1112
開　会：会長挨拶、来賓祝辞
講演会：講師　美ら海水族館　植田 啓一 氏
記念撮影・懇談会：
会　費：7,000円（同伴者中学生以上6,000円、小学生以下無料）
連絡先：090-3607-9299（幹事 カバキノ）
出欠は、後日個別にお送りする往復はがきに記載し投函ください。
九州地区連合同窓会会長／古賀 友英、副会長／樺木野 昂
（宮崎県会長）藤本 幸雄　（熊本県会長）藤崎 英廣
（佐賀県会長）八谷 直見　（沖縄県会長）田中 巧一
（鹿児島県会長）竹中 勝雄

同窓会連合会福島県支部第10回総会のお知らせ

日　時：2014年11月８日（土）午後２時00分～
会　場：「花ノ祥ホール」（三菱電機　隣）
郡山市栄町２－25　TEL 024-973-7045
総　会：事業・予算・決算等の報告、審議等
講　演：「学園の現状と同窓会の未来志向について」
講　師：酪農学園大学 学長　干場 信司氏
懇親会：午後５時00分～
会　費：7,000円（年会費2,000円含む）
出欠は**８月20日**までに**同封の返信用はがき**に**支部名等**を記載し投函ください。　問い合わせ先：鈴木 紀男
〒960-0111 福島市丸子字辰ノ尾51-６　TEL 024-553-9255

お知らせとお願い

住所変更された同窓生の方は、下記のいずれかの方法で、同窓会連合会事務局までご連絡ください。
TEL 011-386-1196　FAX 011-386-5987
e-mail：rg-dosok@rakuno.ac.jp
〒069-8501 江別市文京台緑町582
同窓会連合会事務局
http://rakuno.org/　ご覧ください。

理事・監事・評議員等一覧 （2014年7月1日現在）

■理事長
麻田信二

■学園長
仙北富志和

■常務理事
福山二仁

■理事（10名）
《学園長》
仙北富志和
《学長》
干場信司
《校長》
榮忍
《評議員互選》
菊地政則　酪農学園大学名誉教授
野村武　酪農学園同窓会連合会会長
《学識経験者》
麻田信二　（学）酪農学園理事長
島津宏興　島津法律事務所所長
中野吉晴　雪印メグミルク㈱代表取締役社長
福山二仁　（学）酪農学園常務理事
矢野征男　ホクレン農業協同組合連合会顧問

■監事（3名）
後藤道博　元. 新日本有限責任監査法人代表社員
佐藤泉　元. 北海道ホルスタイン農協専務理事
山口靖孝　㈱北辰フーズ取締役会長

■評議員（26名）
《職員互選者》
荒木和秋　酪農学園大学（教授）
谷山弘行　酪農学園大学（教授）
田村豊　酪農学園大学（教授）
矢吹哲夫　酪農学園大学（教授）
照井俊秀　酪農学園大学（教育センター事務次長）
十倉宏　酪農学園大学（就職部事務次長）
久保木崇　とわの森三愛高等学校（教頭）
真田昭好　とわの森三愛高等学校（教頭）
田中義則　酪農学園事務局（局長）
《同窓会推薦者》
上村篤正　大学同窓会
大澤宏一　大学同窓会
小山久一　大学同窓会
野村武　大学同窓会
堀内信良　短期大学同窓会
浅野政輝　高等学校同窓会
《学識経験者》
安孫子建雄　江別製粉㈱代表取締役社長
菊地政則　酪農学園大学名誉教授
北良治　奈井江町長
佐々木靖子　（財）全日本編物教育協会評議員
城近泰　元. 大東食研㈱常務取締役
壇辻雅博　雪印メグミルク㈱酪農総合研究所所長
永田享　（公財）酪農学園後援会常務理事
西川治彦　北海道獣医師会副会長
町村均　㈱町村農場代表取締役
山﨑恵子　磯田園製茶㈱札幌麻生店店長
山本隆　日本酪農青年研究連盟委員長

2014年度 役職名簿一覧 （2014年4月1日現在）

学長		干場信司
宗教主任		藤井創
農食環境学群長		荒木和秋
獣医学群長		田村豊
獣医学部長		田村豊
酪農学研究科長		尾碕亨
獣医学研究科長		林正信
循環農学類長		小宮道士
食と健康学類長		石下真人
環境共生学類長		山舗直子
獣医学類長		竹花一成
獣医学科長		竹花一成
獣医保健看護学類長		北澤多喜雄
《教育センター》		
教育センター長		森田茂
教育センター次長		矢吹哲夫
教務担当部長		發地喜久治
教務担当次長		上野岳史
教務担当次長		岩野英知
教務担当次長		吉野宣彦
事務次長		照井俊秀
教務1課長		漆原滋
教務2課長		佐々木淳
《学生部》		
部長		永幡肇
次長		泉賢一
事務次長		赤尾全廣
医務室長		野越禎子
《入試部》		
部長		小野寺秀一
次長		小糸健太郎
事務次長		川邊哲司
入試課長		加藤浩
《就職部》		
部長		遠藤大二
次長		保原達
事務次長		十倉宏
《附属図書館》		
館長		岩井洋
副館長		横田博
事務課長		頭川恵子
《附属家畜病院》		
病院長		中出哲也
副病院長		片桐成二
《エクステンションセンター》		
所長		佐々木均
次長		樋口豪紀
次長		堂地修
事務次長		林多喜夫
生涯学習課長（出版担当）		塩出真司
生涯学習課長		後藤哲也
国際交流課長		高橋直樹
《教職センター》		
センター長		寺脇良悟
《酪農学園フィールド教育研究センター》		
センター長		中辻浩喜
副センター長		園田高広
副センター長		小岩政照
副センター長		澤本卓治
《学務部》		
部長		伊藤眞美
学務課長		高橋秀一
研究支援課長		新政文
《事務局》		
局長		田中義則
次長（総務担当）兼 総務課長、情報システム課長		廣岡亨
次長（財務担当）兼 管財課長、高校事務部長		加福幸枝
財務課長		岩井繁和
施設課長兼高大寮務課長		田口俊哉
東京オフィス所長		髙澤靖
《戦略本部》		
局長兼内部監査室長		近雅宜
課長		中港康裕
課長		鈴木章代
《学園広報室》		
課長		江口祐子

人の動き

1．2014年３月31日付け発令（退職）

(1) 大　学

酪農学科	教授	上田純治
酪農学科	教授	小阪進一
酪農学科	教授	松中照夫
農業経済学科	教授	市川　治
農業経済学科	教授	村岡範男
環境マネジメント学科	教授	篠崎志朗
地域環境学科	教授	森川　純
獣医保健看護学類	教授	加藤清雄
獣医学科	教授	泉澤康晴
循環農学類	教授	金田隆一
獣医学科	准教授	黒澤　隆
獣医学科	准教授	高橋樹史
食品流通学科	教授(嘱託)	鈴木忠敏
食品流通学科	教授(嘱託)	本多芳彦
生命環境学科	教授(嘱託)	小川　巖
生命環境学科	准教授(嘱託)	鈴木　透
食品科学科	講師(嘱託)	奥村昌子
食と健康学類	助手(嘱託)	小野静香
食と健康学類	助手(嘱託)	宮崎早花
食と健康学類	助手(嘱託)	横尾千尋
附属家畜病院	薬剤師(嘱託)	髙野加奈

(2) 高　校

副校長	黒畑勝男	
教諭	中ノ目敏雄	
教諭	龍　聡己	
講師(嘱託)	三浦高譽	

(3) 事務局

総務課	課長	浦川利幸

2．2014年４月１日付け発令

(1) 採　用

①大　学

食と健康学類	教授	阿部　茂
獣医学類	教授	大杉剛生
獣医学類	教授	北村　浩
循環農学類	准教授	天野朋子
循環農学類	准教授	三枝俊哉
環境共生学類	准教授	鈴木　透
環境共生学類	准教授	森　さやか
食と健康学類	講師	相原延英
獣医学類	講師	村田　亮
獣医学類	助教	玉本隆司
循環農学類	准教授(嘱託)	岩本正姫
獣医保健看護学類	准教授(嘱託)	黒澤　隆
食と健康学類	助手(嘱託)	小林祥子
食と健康学類	助手(嘱託)	鈴木　央
食と健康学類	助手(嘱託)	松谷佳苗
学務部研究支援課	主任主事	長谷川泰子
EXセンター生涯学習課	主任主事	工藤匡晃
EXセンター生涯学習課	主事(嘱託)	長谷川みちる
EXセンター生涯学習課	主事(嘱託)	山崎耕太
附属家畜病院	薬剤師(嘱託)	喜代濱　円

②高　校

教諭(嘱託)	髙屋浩介	
教諭(嘱託)	星野信隆	
講師(嘱託)	岩﨑正行	
講師(嘱託)	瀧沢光希	
特任職員	中ノ目敏雄	

③事務局

財務課	主任主事	出澤朋子
農事課	主任技師	山﨑崇典
農事課	主事	石塚研太
総務課	主事補	松村悠衣
総務課	特任職員	浦川利幸

④学園広報室

学園広報室	課長	江口祐子
学園広報室	主事(嘱託)	中村さとみ
学園広報室	主事(嘱託)	山石瞳美

(2) 昇　格

①大　学

教授	佐藤喜和	(前.准教授)
教授	澤本卓司	(前.准教授)
教授	樋口豪紀	(前.准教授)
准教授	郡山尚紀	(前.講師)
准教授	椿下早絵	(前.講師)

②事務局

情報システム課課長補佐	竹下善史	(前.情報システム課主任主事)

(3) 異動等

①異　動

[大　学]

学務課課長補佐	中村隆文	(前.学園広報室課長補佐)
附属図書館課長補佐	廣田政則	(前.情報システム課課長補佐)
教務１課主任主事	浅井太一	(前.戦略本部主任主事)
就職課主任主事	浅野由貴枝	(前.教務２課主任主事)

[事務局]

事務局長付主任主事	窪田系生	(前.附属図書館主任主事)
情報システム課主任主事	三井友秀	(前.教務１課主任主事)

[戦略本部]

戦略本部主任主事	津川裕一	(前.学務課主任主事)

②委　嘱

[戦略本部]

戦略本部課長	鈴木章代	(北海道農政部農政課派遣)

3．2014年５月１日付け発令

(1) 採　用

①大　学

環境共生学類	助手(嘱託)	窪田千穂
環境共生学類	助手(嘱託)	細田祥子

聖句解説　「負けて勝つ」　酪農学園大学　宗教主任　藤井　創

イサクが掘った井戸が周りの人々に奪われました。別の場所を掘ったら、また奪われました。彼は争わず、苦労して掘った井戸を譲って他の場所に移っていきました。イサクは「負け続けた人」です。しかし、負け続けたように見えるイサクは、最後は広い場所（神の祝福）を与えられました。阿波根昌鴻さんは伊江島で米軍に土地を奪われました。しかし、彼の非暴力思想は今も沖縄の人々の心の灯火です。阿波根さんは「負けて勝った」のです。イエスさまも世の力に押し流され十字架刑を受けました。イエスさまも「負けた」のです。しかし、わたしたちは、十字架上で赦しの言葉を語ったイエスさまが彼を十字架にかけた人々に勝利したことを知っています。負けてもいいのです。負けて勝つのです。

酪農学園だより Vol.138
2014.7.1

発行：学校法人酪農学園
酪農学園大学／大学院／とわの森三愛高等学校

編集：学園広報室
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582
TEL（011）388-4158　FAX（011）388-4157
HPアドレス：http://www.rakuno.ac.jp
E-mail：koho@rakuno.ac.jp

印刷：社会福祉法人 北海道リハビリー

※本紙の内容を無断で複写・複製（コピー）することを禁じます。